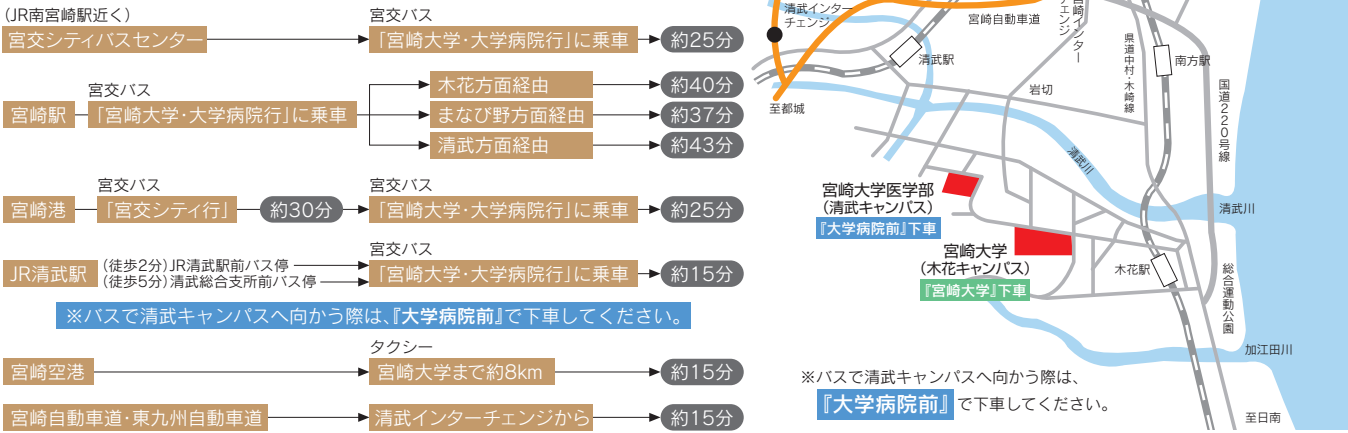


交通アクセス

宮崎までの交通アクセス

- 航空機
- 東京 ―― 宮崎(1時間45分)
- 名古屋 ―― 宮崎(80分)
- 大阪 ―― 宮崎(70分)
- 福岡 ―― 宮崎(40分)
- 沖縄 ―― 宮崎(80分)
- JR(特急)
- 博多 ―― 宮崎(3時間45分)
- 小倉 ―― 宮崎(4時間)
- 熊本 ―― 宮崎(3時間)
- 大分 ―― 宮崎(3時間)
- 鹿児島 ―― 宮崎(2時間10分)
- 高速バス
- 福岡 ―― 宮崎(4時間)
- 熊本 ―― 宮崎(3時間)
- 長崎 ―― 宮崎(5時間20分)

宮崎大学までの交通機関



各プログラムに関する問い合わせ

プログラム名	役職	担当者	電話番号
化学生命プログラム	プログラム長	井澤 浩則	0985-58-7389
	教務委員	宇都 卓也	0985-58-7394
土木環境プログラム	プログラム長	末次 大輔	0985-58-7330
	教務委員	関戸 知雄	0985-58-7335
半導体サイエンスプログラム	プログラム長	森 浩二	0985-58-7371
	教務委員	前田 幸治	0985-58-7399
電気電子システムプログラム	プログラム長	穂高 一条	0985-58-7352
	教務委員	武居 周	0985-58-7403
機械知能プログラム	プログラム長	鄧 鋼	0985-58-7299
	教務委員	長瀬 慶紀	0985-58-7294
情報通信プログラム	プログラム長	片山 徹郎	0985-58-7586
	教務委員	内山 良一	0985-58-7418

- 工学部の教育・入試関係の
お問い合わせ
- 工学部教務・学生支援係
TEL.0985-58-2874
- 工学部について
一般的な問い合わせ
- 工学部総務係
TEL.0985-58-2871

令和7年度 学部・大学院案内

宮崎大学工学部 大学院工学研究科

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
1-1,Gakuen-kibanadai-Nishi,Miyazaki889-2192,Japan
TEL:0985-58-2871 E-Mail:kousoumu@of.miyazaki-u.ac.jp
<https://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/>

令和7年度 学部・大学院案内

宮崎大学
工学部・大学院工学研究科

温暖な気候と豊かな自然に育まれて、宮崎に根ざし、世界に目を向ける

年号	年月	学部の充実 Development of the Faculty	大学院の充実 Development of the Graduate School
昭和	19年 5月	宮崎県高等工業学校開校 Establishment of Miyazaki Prefectural Higher Technical School(1944) ■機械科 ■航空機科 ■化学工業科 120名	
	19年 8月	宮崎県工業専門学校に改称 Rename to Prefectural Technical College(1944)	
	21年 2月	航空機科廃止→土木科設置	
	24年 5月	宮崎大学工学部発足 Foundation of the Faculty of Engineering(1949) ■機械工学科 ■工業化学科 ■土木工学科 90名	
	33年 4月	機械工学科、工業化学科定員増 110名	
	34年 4月		工学専攻科(工業化学専攻)設置
	36年 4月	■電気工学科設置 150名	
	40年 4月		工学専攻科(電気工学専攻)設置
	41年 4月	■応用物理学科設置 190名	
	42年 4月		工学専攻科(機械工学専攻)設置
	44年 4月		工学専攻科(土木工学専攻)設置
	45年 4月		工学専攻科(応用物理学専攻)設置
	47年 4月	土木工学科定員増 210名	
	51年 4月		大学院工学研究科設置 Establishment of Graduate School(of Engineering) for Master's Courses(1976) 修士課程 工業化学専攻、電気工学専攻、機械工学専攻 土木工学専攻、応用物理学専攻 42名
	61年 4月	■電子工学科設置 4学科に臨時増募定員20名 270名	
	61年 8月	工学部移転 Relocation to new campus(1986)	
	62年 4月	2学科に臨時増募定員10名 280名	
平成	2年 4月	■情報工学科設置 320名	電子工学専攻設置 50名
	3年 4月	工業化学科定員増 340名	
	4年 4月	改組 物質工学科・電気電子工学科・土木環境工学科 機械システム工学科・情報工学科 370名	
	6年 4月		情報工学専攻設置 58名
	8年 4月		大学院工学研究科博士課程設置 Establishment of Graduate School for Doctoral Courses(1996) 後期課程定員(12名)、修士課程を博士前期課程へ改組(68名) 80名
	9年 4月		前期課程定員増(30名) 110名
	10年 4月	臨時増募の廃止に伴う定員減10名 360名	
	11年 4月	改組 材料物理工学科・物質環境化学科・電気電子工学科・土木環境工学科 機械システム工学科・情報システム工学科 390名	
	12年 4月	臨時増募の廃止に伴う定員減10名 380名	
	13年 4月	3年次編入学定員振替10名 370名	
	15年10月	宮崎大学と宮崎医科大学との統合 Unification of Miyazaki University and Miyazaki Medical College(2003)	
	16年 4月	国立大学法人宮崎大学の発足 Establishment of the National University Corporation,University of Miyazaki(2004)	
	17年 4月		前期課程改組 物質工学専攻(30名)を応用物理学専攻(15名)、 物質環境化学専攻(21名)へ改組 情報工学専攻(8名)を情報システム工学専攻(18名)へ改組 126名
	19年 4月		大学院工学研究科博士前期課程を修士課程へ改組 114名 大学院農学工学総合研究科博士後期課程新設 資源環境科学専攻(4名)、生物機能応用科学専攻(4名) 16名 へ改組 物質・情報工学専攻(8名) 大学院工学研究科博士後期課程廃止 これに伴い、工学研究科博士前期課程を工学研究科修士課程に名称変更。
	24年 4月	改組 環境応用化学科・社会環境システム工学科・ 環境ロボティクス学科・機械設計システム工学科・ 電子物理工学科・電気システム工学科・情報システム工学科 370名	工学研究科修士課程 定員改組 134名 大学院農学工学総合研究科博士後期課程改組 資源環境科学専攻(7名)、生物機能応用科学専攻(4名) 16名 へ改組 物質・情報工学専攻(5名)
	28年 4月		工学研究科修士課程 改組 134名 工学専攻 ■環境系コース ■エネルギー系コース ■機械・情報系コース
令和	3年 4月	改組 1学科6プログラム 工学科 応用物質化学プログラム・土木環境工学プログラム・ 応用物理工学プログラム・電気電子工学プログラム・ 機械知能工学プログラム・情報通信工学プログラム 370名	
令和	6年 4月		工学研究科修士課程 改編 144名 修士課程定員増(10名) 工学専攻 ■先端情報コース ■環境コース ■電気・半導体コース ■機械コース

宮崎大学工学部は“入学後の伸びしろ”で
国立大学トップを目指す！

工学部長 鈴木 祥広
Dean of Engineering Yoshihiro Suzuki



国立大学には工学系学部が設置されています。どの都道府県にもあります。当然、宮崎県にある宮崎大学にも工学部があります。なぜでしょうか？！

電気、ガス、水道・下水道、電話、通信等のライフライン、道路や橋、港、街などの都市のインフラ、様々な食料の安全管理、生活必需品、電化製品、医薬品・医療機器など、我々の生活に必要な施設、製品、システムは、全て工学が担っています。したがって、工学の学問・技術無くして、人々は生きて行けません。工学は50年、100年先も発展し続けます。社会の全ての産業界において、工学系人材の需要は極めて高く、工学部の学生は将来の日本に必須の人財です。しかし、各種調査結果では高校生に工学部は人気がありません…。私は、工学の意義や魅力、ミッションを知らないことが原因だと考えています。そこで、全国の多くの国立大学工学系学部と比較して、宮崎大学工学部の強みをご紹介します。

【宮崎大学工学部の強み】

【教育】

- 学びたい分野を入学後に変更できる。（入学時の「系」から2年次に1年次の成績次第で「プログラム」変更可、3年次プログラムも条件付き変更可）※学校推薦型選抜と総合型選抜での合格者は、異なるプログラムへ変更することはできませんので、注意してください。
- 物理の苦手な学生のために、1年次に高校基礎から学べる科目「工学のための物理学演習」（1単位）を開講している。高校で物理未履修でも専門科目が理解できるレベルまで丁寧に指導する。
- 1・2年次に全ての分野の基礎が学べる（融合分野の育成）。
- 情報分野の教育は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」に認定され、カリキュラムが充実している！
- 各分野の専門科目の内容・レベルは、有名大学とほぼ同一である。
- 大学院工学研究科では、トップ企業のエンジニア出身の教授や30歳前後の若手教員、新進気鋭の外部講師も登壇する。

【研究】

- 宮崎大学工学部の教員で、他大学の教員と同一のテーマを研究している者はいない。
- Only Oneの研究者の集団である。
- 研究テーマは、「地域から世界」、「遺伝子から宇宙」を対象として、多岐にわたる。
- 「カーボンニュートラル」・「医工連携(画像AI、マテリアル)」・「環境・防災」では、世界と戦う研究レベルにある。

【宮崎大学工学部生のポテンシャル】

“入学後の伸びしろ”は、国立大学の中でも際立ってきている。
(希望する企業への就職実績、学会・シンポジウム等での受賞・表彰者数)

【Why?】

- 教員の丁寧で熱心な指導
- 事務職員・技術職員の細やかな支援
- 恵まれた教育・研究環境

入学したら卒業・修了までに、宮崎大学工学部は皆さんの“伸びしろ”を限界突破まで育てます。
太陽と海と山に囲まれたこの自然豊かな宮崎の地から、世界を視野に一緒に学んでいきましょう。

令和7年度から各プログラム名称及び入試方法を変更します。

■プログラムの名称変更について

工学部では、本学の強み特色である「生命・環境・エネルギー・食・共生」分野に関係する多様な研究を推進しており、その基盤となる教育を行っています。卒業生がどのような力を身に付けるのかを高校生・保護者、ならびに企業等にわかりやすく伝えるため、プログラムの名称を次のとおり変更します。

変更前令和6年度

名 称	募集人員	一般選抜		総合型選抜
		前期日程	後期日程	
応用物質化学プログラム	370	240	90	6
土木環境工学プログラム				7
応用物理工学プログラム				5
電気電子工学プログラム				5
機械知能工学プログラム				8
情報通信工学プログラム				9
合 計	370	240	90	40



変更後令和7年度

名 称	募集人員	一般選抜		総合型選抜	学校推薦型選抜
		前期日程	後期日程		
化学生命プログラム	370	200	93	2	9
土木環境プログラム				2	13
半導体サイエンスプログラム				2	9
電気電子システムプログラム				2	10
機械知能プログラム				2	12
情報通信プログラム				2	12
合 計	370	200	93	12	65

■「学校推薦型選抜」の導入

全プログラムにおいて、大学入学共通テストを課さない学校推薦型選抜として、宮崎県就職希望枠（普通科区分、専門学科・総合学科区分）、女子枠、一般枠を実施します。

【宮崎県就職希望枠（普通科区分、専門学科・総合学科区分）

宮崎県で活躍する工学人材の育成を目的として、入学後は専門教育のみならず地域の抱える課題等について学び、将来宮崎県内に就職し工学人材として地域の発展に貢献する意欲のある生徒を学校推薦により募集します。また、職業教育を主とする学科の高校生の中には、教育課程の違いから大学進学を躊躇する学生も少なくありません。そこで、学習背景が異なる多様な人材を受け入れることを目的として、普通科区分と専門学科・総合学科区分に分けて募集人員を設定します。選抜試験では、教育課程の違いを踏まえ、小論文を課し、出願書類、筆記試験（数学Ⅰ・数学Ⅱ）及び面接と併せて評価し、他の入試枠とは区別して合否を判定します。

【女子枠】

多様な視点による産業の発展及び生産性の向上には工学分野における女性比率の増加が必要と考えられており、男女共同参画社会基本法における積極的改善指導の考えに基づき、将来工学人材として活躍する意欲のある女子生徒を学校推薦により募集します。選抜試験では、小論文を課し、出願書類、筆記試験（数学Ⅰ・数学Ⅱ）及び面接と併せて評価し、他の入試枠とは区別して合否を判定します。

宮崎大学工学部は教育研究を理解いただけるよう以下の企画を行っています。

1 令和6年度
オープンキャンパス

8/9^金・10^土

2 大学訪問・出前講義

高校単位で随時

大学開放・体験入学

アドベンチャー工学部

11/16^土
(開催予定)

テクノフェスタ体験入学

11/23^土
(開催予定)

親子で参加する
工学部キャンパスツアー

2025 3/30^日
(開催予定)

最新の情報は、工学部ホームページにてご確認ください。

女子中高生の理系進路選択支援を強化します！

工学部では2023年度から女子中高生の理系進路選択支援プログラム「集まれ！宮崎アマテラスガールズ～サイエンスの岩戸を開けてみよう～」を始めました。中学生・高校生を対象に共同機関および連携機関と密接に連携しながら年間を通じて様々な企画を実施しています。これらの取り組みを波及させていくことで、中高生を取り巻く人々、さらには、社会全体の意識の変化をもたらし、将来工学部を目指す多様な人材の増加を目指します。

詳細はHPをご確認ください。
(<https://www.miyazaki-u.ac.jp/jyoshi-shien>)

QR code for program details

予定イベント

1 サイエンスキャラバン

2 講演会

3 アマテラスサイエンス体験講座

4 エンジニアリングカフェ

5 施設見学会

本プロジェクトは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の支援を受け、実施するものです。

2 Faculty of Engineering University of Miyazaki 2025

Faculty of Engineering University of Miyazaki 2025 3

宮崎に根ざし、世界に目を向けた工学部。

工学部では、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、人間性豊かで、コミュニケーション能力が高く、確実な基礎学力と幅広い応用能力を身につけ、21世紀の高度な科学技術分野や最先端技術分野で活躍できるような、問題発見・解決能力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目指しています。



データサイエンス強化

- 工学部全学生が受講する「工学部データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎)」を令和3年度より開始
(文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」に認定(有効期限令和9年3月31日))
- 地域のDX化を牽引できる高度専門人材育成のための演習を令和5年度より開始
(文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」)



学べる、1学科6プログラム

工学科

化学生命プログラム

化学における基本原理の探求から先端技術開発にわたる学術研究を通じて、持続可能で豊かな生活を実現するための物質・エネルギー生産・地球環境及び生態系の保全に関わる人材を育成するために、化学、数学、情報などの専門基礎から専門的かつ先端的な応用化学・生命・材料などの分野を網羅した教育を行います。

土木環境プログラム

自然科学、社会科学ならびに情報科学の素養をあわせもち、総合的観点から「地球にやさしく、うるおいのある社会・環境」を計画・建設・管理できるシビルエンジニアを育成するために、建設工学系科目、環境工学系科目および計画工学系科目に加えて、エンジニアリングデザイン能力育成科目を配置して体系的かつ実践的な教育を行います。

半導体サイエンスプログラム

これからの超スマート社会の実現のために、AIやIoTなどの情報科学技術、光・量子技術、半導体技術の飛躍的進化が必要です。本プログラムでは物理学や数学などの基礎科学と他の専門分野も融合させた教育を行い、習得した知識を実用技術へと発展できる能力や課題解決能力、高い倫理性を持った技術者や研究者を育成します。

電気電子システムプログラム

電気電子工学の基礎から応用までを学べるプログラムです。再生可能エネルギー、医療・生体工学、スマートエネルギーソリューションの各分野において最先端の研究開発に携わることが出来ます。数学、物理、英語などの基礎科目、専門科目、実験・演習を体系的に編成した教育を実施し、社会で活躍できる人材教育を行います。

機械知能プログラム

人文・経済などの教養教育と数学・物理などの基礎教育を実施した上、機械技術者として創造的思考の基盤となる機械工学の専門知識を養う教育を行うほか、次世代の機械に求められるニーズに対応するための教育を行います。また、実験・実習などを通して論理的な表現力やコミュニケーション能力を培う教育を行います。

情報通信プログラム

急速に発展する情報通信技術に対応するために、情報工学および通信工学の基礎とその応用分野についての専門知識を習得します。また、実システムの開発に必要な情報通信システムを設計、実装、評価する実践力を養成します。これらを講義と演習をバランスよく配置した体系的なカリキュラムで教育します。

工学部のアドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

工学部では、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、人間性が豊かで、コミュニケーション能力が高く、確実な基礎学力と幅広い応用能力を身に付け、21世紀の高度な科学技術分野や最先端技術分野で活躍できるような、問題発見・解決能力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目指しています。そこで、以下に示す「入学後の学修に必要な能力・適性」を多面的かつ総合的な評価手法によって選考し、受け入れます。

- 1) 工学技術者を目指し、地域社会や国際社会の発展に貢献する意欲がある人(主体性)
- 2) 自ら考え、主体的に学修する目的意識を有する人(主体性)
- 3) 大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な協調性及びコミュニケーションの基本的なスキルを身に付けた人(協働性、表現力)
- 4) 工学における多様な分野にも興味を持ち、創造性豊かな技術力と問題発見・解決能力を身に付けて社会に貢献する意欲のある人(学問への関心、思考力)
- 5) 工学専門分野を修得できる基礎学力を有する人(知識・理解、思考力)

2. 入学選抜の基本方針

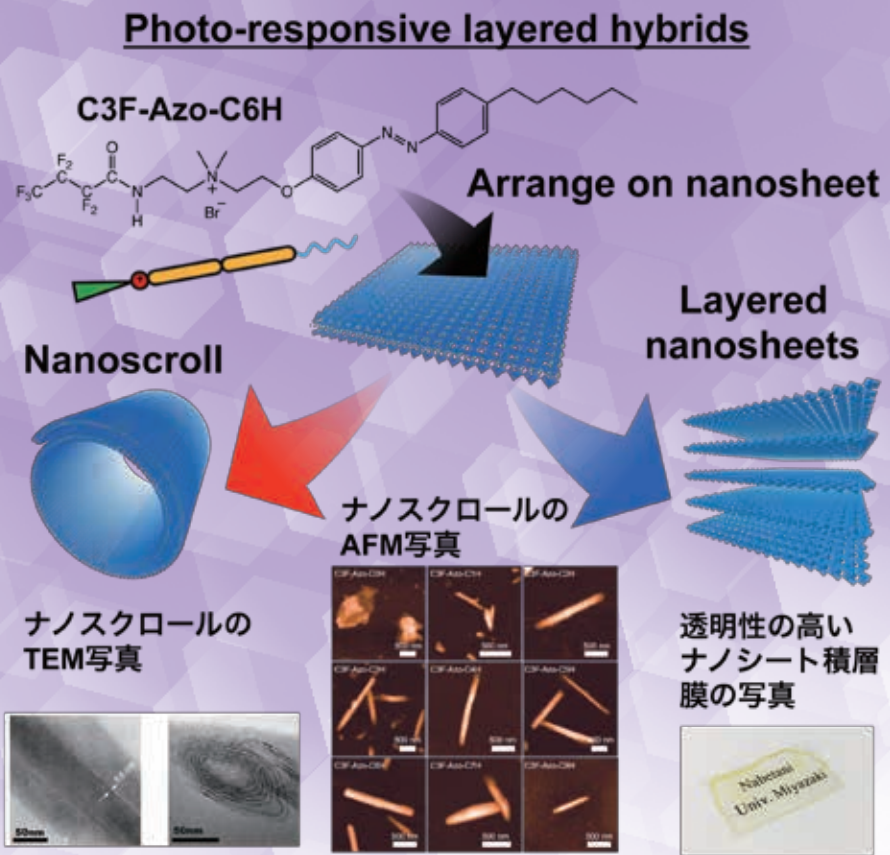
選抜区分	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。
学校推薦型選抜 総合型選抜〈一般枠〉	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的でかつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。
総合型選抜 〈私費外国人留学生枠〉	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について(求める能力や適性等の評価方法とその比重(◎:特に大きい比重、○:大きい比重))

求める能力や適性等		知識・技能	思考力 表現力	主体性 協調性 学問への関心
選抜方法				
前期日程・後期日程	共通テスト	◎	○	
	個別学力検査	○	◎	
	主体性評価			◎
総合型選抜〈一般枠〉	筆記試験	◎		
	小論文		◎	○
	面接	○	○	◎
	提出書類	○	○	◎
学校推薦型選抜	筆記試験	◎		
	小論文		◎	○
	面接	○	○	◎
	提出書類	○	○	◎
総合型選抜 〈私費外国人留学生枠〉	日本留学試験	◎	○	
	小論文	○	◎	
	面接	○	○	◎

4. 入学までに身に付けてほしいこと

高校で履修した科目に関する基礎学力について十分な深達度を得ていることが望まれる。さらに、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれる。



化学の力で持続可能で豊かな生活の実現を目指す

求める学生像

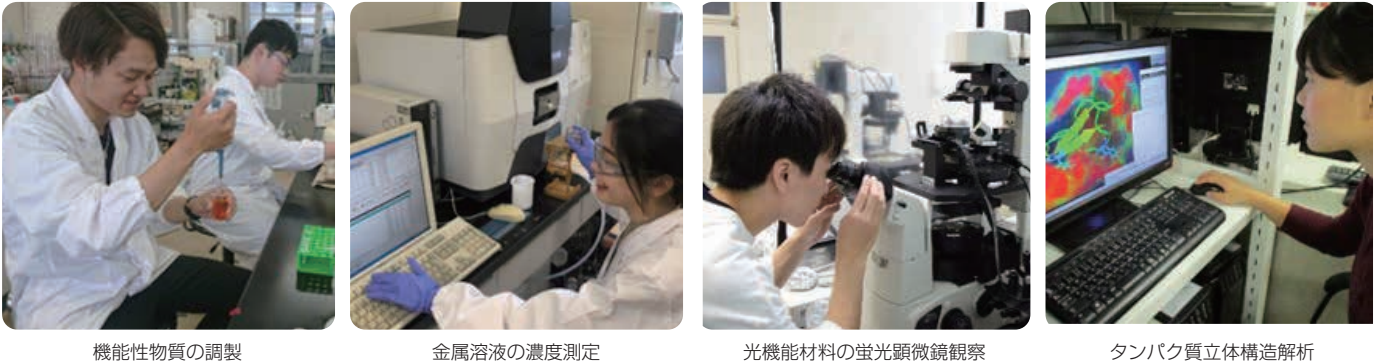
化学生命プログラムでは、応用化学および生命化学に関連する幅広い知識を習得できる教育を行います。学んだ知識を活用し、問題発見・解決できる創造性豊かな技術者や研究者の育成を目指しています。そこで本プログラムでは次のような人材を求めています。

- (1) 化学の知識・技術・考え方を真剣に学び、それを将来、応用化学あるいは生命化学などの分野で活かしたいという情熱を持っている人。

(2) 化学および生命化学に関連する自然科学に対して幅広い興味を持ち、好奇心豊かな人。
- (3) 実験や観察が好きで、科学の様々な現象について考え、それを表現することに情熱を持っている人。

(4) 数学、理科、情報技術および語学の基礎学力を持ち、それを身近な問題に応用できる人。

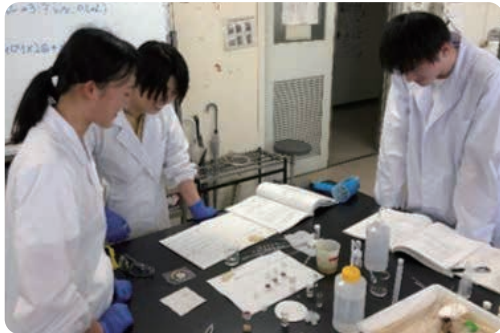
研究・実習等の様子



カリキュラムの概要

カリキュラムは工学を学ぶ上での基礎となる、数学、情報技術、物理学、化学等の工学基礎科目および専門的かつ先進的な化学および生命化学等の分野を踏襲した専門科目から構成されます。専門科目は、実験や課題演習などの実践的プログラムも充実しています。4年次には希望する研究分野で卒業研究を行い高度な専門知識と技術を修得します。

※詳しくは下記URLのホームページでご確認ください。



工学科化学生命プログラム カリキュラム				令和6年4月1日現在
	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
教養教育科目	導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語、専門接続系)		課題発見科目(データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系)	
	未来共創科目(構想・デザイン系、共創・創造系)			
工学基礎科目	● 数学解析Ⅰ・Ⅱ ● 物理学Ⅱ ● 基礎科学実験 ● 工学のための物理学演習	● 線形代数 ● 化学概論 ● 数理情報Ⅰ・Ⅱ ● 力学	● 数学解析Ⅲ ● 応用数学 ● 電磁気学 ● 力学	● 工学英語 ● 技術者倫理と経営工学
共通教育科目	【概論科目】 ● 工学概論	【分野融合科目】 ● 現象と数理	【PBL科目】 ● プロジェクト演習	Pick up 課題演習Ⅰ 応用化学が関連する最新の課題(研究基盤技術やAI活用、安全管理など)を創意工夫して解決する演習を行い、課題探求および問題解決能力を養います。
専門必修科目	● 無機化学基礎 ● 有機化学基礎	● 物理化学Ⅰ・Ⅱ ● 有機化学Ⅰ ● 無機化学 ● 分析化学	● 反応工学 ● 安全工学 ● 課題演習Ⅰ・Ⅱ	● 卒業研究
専門選択科目	Pick up 応用物質化学実験Ⅰ 応用物質化学実験Ⅰ～Ⅲでは化学実験の基本事項を身につけ、実験体験を通じて化学実験の面白さを体験し、化学の勉強意欲を高めることを目的とします。	● 有機化学Ⅱ ● 無機材料化学 ● 微生物工学	● 分光分析学 ● 機器分析化学Ⅰ・Ⅱ ● 分離工学 ● 細胞生命工学 ● 応用物質化学特論	● 水環境
工場実習、学外技術研修				長期インターンシップ
海外体験学習				

※2024年度入学生(応用物質化学プログラム)までのカリキュラムになります。

主な研究分野

物質機能化学分野

ナノサイズの機能性シリカカプセル

分子の相互作用を利用した高分子超多孔体の開発と機能化
機能性分子を内包した中空ナノカプセルの開発と応用
光エネルギーから有用物質を生産する光触媒の開発
光刺激により駆動するアクチュエーター・人工筋肉材料の開発

機能材料化学分野

世界初! 光を通し、高温で水素が動く機能性セラミックス

固体高分子型燃料電池の高性能化
アルカリ形燃料電池用電極触媒の開発
酸化物のイオン輸送特性と電気化学セルへの応用
都市鉱山精錬に有用な抽出剤の開発
抗癌剤・難溶性生理活性物質の体内送達システムの開発
環境調和型有機合成法の開発と生理活性物質合成への応用
資源回収および環境保全に有用な分離システムの開発

生物物質化学分野

CeSDタンパク質内部におけるセルロース分子鎖

微生物機能を利用した環境浄化・修復
機能性溶媒の設計を目指した分子シミュレーション技術の開発
生体高分子のダイナミクス構造と機能
生理活性を有する光機能性物質の開発
有害物質を分解する微生物のゲノム解析、進化
生体高分子を用いるバイオマテリアルの開発

詳細は化学生命プログラムのHPをご覧ください。 <https://www.chem.miyazaki-u.ac.jp/>





地球環境と調和した土木技術を目指して

求める学生像

土木環境プログラムでは、技術者の基礎となる能力、土木環境工学のどの分野でも活躍できるための基礎能力、社会の要請を察知・理解して適切な行動ができる人材の育成を目指しています。また、地球的視点から多面的に物事を考える能力を身につけた人材の育成を目指しています。

- (1) 生活・生産基盤の建設や維持管理、防災、都市計画、環境保全に興味がある人。
- (2) 土木環境分野に興味を持ち、それらに関し本を読むなど、積極的に自己学習できる人。
- (3) 自然科学の基礎学力(数学、物理、化学)を有している人。
- (4) 日本語と英語を基礎とした表現力を持っている人。
- (5) 学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元できる人。

研究・実習等の様子



社会を支えるインフラ設備の現場見学



廃棄物を利用したコンクリートの開発



資源の循環と環境保全に関する研究



開発途上国の環境問題に関する調査研究

カリキュラムの概要

本プログラムの教育カリキュラムは、日本技術者教育認定機構(JABEE)に認定されています。自然との共生を図りつつ、社会基盤(道路、橋、トンネル、上下水道、廃棄物処理など)の充実に貢献できる高度な土木技術者の育成を目的としたカリキュラムを実施しています。

※詳しくは下記URLのホームページでご確認ください。



工学科土木環境プログラム カリキュラム

令和6年4月1日現在

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
教養教育科目	導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語、専門接続系)			
	課題発見科目(データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系)			
	未来共創科目(構想・デザイン系、共働・創造系)			
工学基礎科目	- 数学解析Ⅰ・Ⅱ - 物理学Ⅱ - 基礎化学 - 数理情報Ⅰ・Ⅱ	- 線形代数 - 力学 - 基礎科学実験 - 工学のための物理学演習	- 数学解析Ⅲ - 応用数学	- 工学英語 - 技術者倫理と経営工学
共通教育科目	【概論科目】 ● 工学概論	【分野融合科目】 ● 現象と数理	【PBL科目】 ● プロジェクト演習	Pick up 土木環境工学実験Ⅰ・Ⅱ 土やコンクリート等の建設材料の性質や、水の流れ・水質を調べる実験です。講義で習った現象を自分で確かめることで専門知識を深めることができます。
専門必修科目	● 数学解析Ⅰ・Ⅱ ● 物理学Ⅱ ● 基礎化学 ● 数理情報Ⅰ・Ⅱ	● 線形代数 ● 力学 ● 基礎科学実験 ● 工学のための物理学演習	● 数学解析Ⅲ ● 応用数学	● 工学英語 ● 技術者倫理と経営工学
専門選択科目	● 数学解析Ⅰ・Ⅱ ● 物理学Ⅱ ● 基礎化学 ● 数理情報Ⅰ・Ⅱ	● 線形代数 ● 力学 ● 基礎科学実験 ● 工学のための物理学演習	● 数学解析Ⅲ ● 応用数学	● 工学英語 ● 技術者倫理と経営工学
海外体験学習	海外体験学習			

※2024年度入学生(土木環境工学プログラム)までのカリキュラムとなります。

主な研究分野

社会基盤分野



地球と調和した土木技術や建設材料の開発を目的に、橋梁などの土木構造物の健全度評価や解析及び循環型社会に適合した高性能コンクリートの開発などについて研究しています。また、災害に強い社会基盤整備に関する研究や、より快適で持続可能な交通システムの実現に向けた研究を行っています。

環境制御分野



限られた資源を効率よく再利用する循環型社会の構築を目指して、水環境の保全・修復、都市・産業廃棄物の有効利用技術について研究しています。また、途上国の廃棄物問題や渇水問題など、国際的な環境問題を扱う研究を行っています。

詳細は土木環境プログラムのHPをご覧ください。 <https://www.miyazaki-u.ac.jp/civil/>





半導体をサイエンス！半導体でサイエンス！！

求める学生像

半導体サイエンスプログラムでは、物理や数学などの基礎科目と、半導体の原理から、作製、自然科学への応用までを幅広くカバーする専門科目を用意しています。これによって、次世代スマート社会の実現と新しい科学の発展を支える技術者や研究者を育成することを目的とした教育をおこないます。そこで本プログラムでは次のような人を求めています。

- 1) 自然科学や科学技術に対して強い関心を持ち、その学習を通して獲得した知識・技術を生かして将来社会の役に立つ情熱を持つ人。

2) 実験や観察が好きで、その結果の意味を考えることに興味がある人。
- 3) 数学や物理に興味があり、その学びを通して得られる知識・技術を応用して、専門分野の学習・研究に主体的に取り組むことに意欲がある人。

4) 数学、物理を含む理科、および、語学についての基礎的学力を有し、持続して自主的に勉学に取り組むことができる人。

研究・実習等の様子



応用物理学実験



レーザ計測装置をつけたドローンによる農産物の収穫量予測



半導体薄膜作成装置による実験



X線CMOSイメージセンサの評価実験

カリキュラムの概要

カリキュラムは、工学基礎科目と共通融合科目（ジェネラリスト育成）を履修し、続いてプログラム専門科目（スペシャリスト育成）を履修する流れとなっています。プログラム専門科目では、まず物理学や数学などの基礎科学を習得し、その後、最先端の半導体開発やその科学応用を含む多種多様な専門基礎知識を習得します。演習や実験を併用することで、应用能力を有する創造性豊かな人材を育成する教育を行います。

※詳しくは下記URLのホームページでご確認ください。



工学科半導体サイエンスプログラム カリキュラム

令和6年4月1日現在

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
教養教育科目	導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語、専門接続系)		課題発見科目(データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系)	
			未来共創科目(構想・デザイン系、共創・創造系)	
工学基礎科目	● 数学解析Ⅰ・Ⅱ ● 物理学Ⅱ ● 化学概論 ● 数値情報Ⅰ・Ⅱ	● 線形代数 ● 力学Ⅰ ● 基礎科学実験 ● 工学のための物理学演習	● 数学解析Ⅲ ● 応用数学Ⅰ ● 電磁気学Ⅰ ● 技術者倫理と経営工学	● 工学英語
共通融合科目	【概論科目】 ● 工学概論	【分野融合科目】 ● 現象と数理	【PBL科目】 ● プロジェクト演習	Pick up 半導体デバイス工学 スマート社会においては、外部を認識する撮像素子、得られた情報を処理する演算素子、情報を記憶する記憶素子、が必要です。これらの基礎となる半導体部品の原理を学びます。
専門必修科目	● 力学演習 Pick up 統計データ解析 実験や観測で集めたデータから、どのような現象が起こっているのかを理解するための法則性を見つける方法について学びます。	● 力学Ⅱ ● 物理学実験 ● 半導体物性実験 ● 電磁気学Ⅱ	● 数値解析 ● 熱力学 ● 電子物性工学	● 卒業研究
	● 材料物性工学 ● 統計データ解析 Pick up 宇宙物理学 半導体がイメージセンサーとして宇宙を観測する手段にもなっていること、および、その観測を通して得られる宇宙の姿について学びます。	● 材料物性工学 ● 統計データ解析	● 応用数学Ⅱ ● 電気回路 ● 量子力学 ● 半導体デバイス工学 ● 電子回路	● レーザー工学 ● データ処理回路
専門選択科目			● 半導体物性工学 ● プログラミング言語 ● 光エレクトロニクス ● 放射線物理学 ● 応用物理学セミナー	● インターンシップ ● 長期インターンシップ
			海外体験学習	

本プログラムの教育カリキュラムは、日本技術者教育認定機構(JABEE)に認定されており、「習得した知識を実用技術へ発展させる能力」「課題解決能力」「高い倫理性」を有する技術者や研究者となる人材を育成することを目的とした教育を行っています。

※2024年度入学生(応用物理学プログラム)までのカリキュラムとなります。

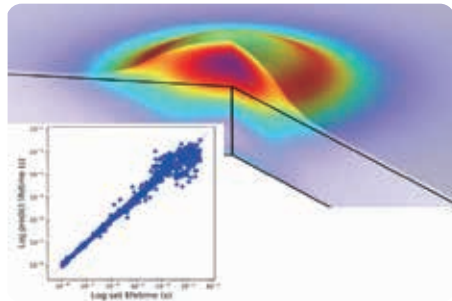
主な研究分野

新材料・半導体分野

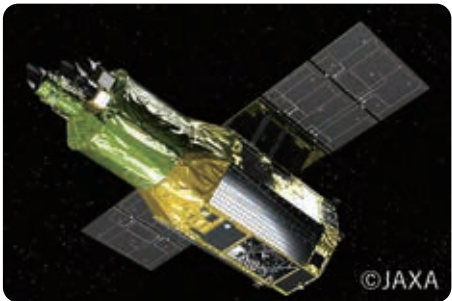
- ナノオーダーサイズの低次元半導体が示す新たな物性の探索
- 中赤外検出用半導体超格子に関する研究
- 超高効率多接合太陽電池への応用を目指した新材料の開発
- 赤外線波長帯の受光素子の研究
- 半導体レーザーのための光電変換素子の研究
- レーザー照射による光学薄膜の作成

量子・計測技術分野

- 国際宇宙ステーションを用いた突然輝きだす天体の観測研究
- X線天文衛星による宇宙高エネルギー現象の観測研究
- 次世代X線天文衛星に搭載するX線CMOSイメージセンサの開発
- 量子ビーム加速器を用いた原子核実験
- 物理計測のための信号処理集積回路の開発
- 農業のための光センシング技術の研究



シミュレーションと機械学習による半導体材料の性能予測



2023年9月に打ち上げたX線分光撮像衛星「XRISM」



宮崎大学ECR型イオン照射装置

詳しくは半導体サイエンスプログラムのHPをご覧ください。 <https://www.miyazaki-u.ac.jp/ssap/>





最先端の電気電子テクノロジーで世界をビリビリさせよう

求める学生像

電気電子システムプログラムでは、数学、電気回路、電磁気学を基礎とし、太陽光発電、再生可能エネルギー、医療工学、集積回路、電力、プラズマ、制御、レーザー、センシング技術、半導体、電磁波の各専門分野の考え方を習得するため、講義、実験、演習を体系的に編成した教育研究を行います。したがって、本プログラムでは、次のような人材を求めています。

- (1) 人類が持続的に発展することに貢献しようとする意思をもつ人。

(2) 問題解決へ向けて、自ら積極的に目標と計画を立てることができる人。

(3) 日本語および英語を用いた基本的表現力をもつ人。

(4) 問題解決へ向けて、強い意志をもって持続的に取り組むことができる人。
- (5) 電気電子工学分野(数学、電気回路、電磁気学を基礎とし、太陽光発電、熱電、再生可能エネルギー、集積回路、プラズマ、制御、レーザー、センシング技術、半導体、電磁波、データサイエンスなどの各専門分野)に強い関心をもつ人。

(6) 電気電子工学分野を学ぶための数学、理科、英語などの基礎学力をもつ人。

研究・実習等の様子



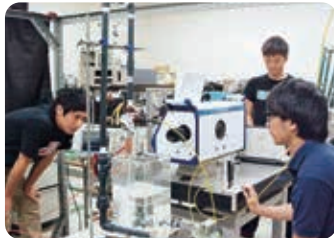
回路シミュレーション実施風景



学生実験風景



車載用高効率太陽電池の実証実験風景



水中放電プラズマ実験風景

カリキュラムの概要

カリキュラムは、大学教育入門セミナー、英語、情報・データリテラシーなどの教養教育科目、工学を学ぶ上での基礎となる数学、物理などの工学基礎科目、他プログラム科目、さらに専門的かつ先端的な回路、半導体、電気などの分野を網羅したプログラム専門科目で構成されています。専門教育では、実験、セミナーや演習科目を充実させ、4年次には、希望する研究分野での卒業研究を通して高度な専門知識と技術を修得できます。

※詳しくは下記URLのホームページでご確認ください。



工学科電気電子システムプログラム カリキュラム

令和6年4月1日現在

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
教養教育科目	導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語、専門接続系)			
	課題発見科目(データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系)			
	未来共創科目(構想・デザイン系、共働・創造系)			
工学基礎科目	● 数学解析Ⅰ・Ⅱ ● 物理学Ⅱ ● 基礎化学 ● 数理情報Ⅰ・Ⅱ	● 線形代数 ● 力学 ● 基礎科学実験 ● 電磁気学Ⅰ	● 工学のための物理学演習 ● 数学解析Ⅲ ● 応用数学Ⅰ	● 工学英語 ● 技術者倫理と経営工学
共通融合科目	【概論科目】 ● 工学概論	【分野融合科目】 ● 現象と数理	【PBL科目】 ● プロジェクト演習	
	【分野融合科目】 ● 応用物質化学概論 ● 土木と環境 ● 量子・ナノテクノロジー概論 ● 電気電子工学概説 ● メカトロニクス ● 情報とコンピュータ			
専門必修科目	Pick up 電気電子工学実験・演習Ⅰ 実験の基礎となる電気諸量の測定原理と測定方法を理解し、実験装置または実験器具の取り扱い方を実験をとおして実践的に学び、習得する。	● 電気回路Ⅰ・Ⅱ ● 計算機プログラミング ● パワーエレクトロニクスⅠ ● 電気電子工学実験・演習Ⅰ	● 電磁気学Ⅱ・Ⅲ ● 制御工学Ⅰ ● 電気電子計測	● 電気回路Ⅲ ● 信号処理Ⅰ ● 電気電子工学実験・演習Ⅱ
			● 電子回路Ⅰ ● 半導体工学Ⅰ	● 卒業研究
専門選択科目		● 応用数学Ⅱ ● 論理回路	● 電子回路Ⅱ ● 電力工学 ● 制御工学Ⅱ ● 通信工学 ● 高電圧工学 ● 電磁波工学	● 信号処理Ⅱ ● パワーエレクトロニクスⅡ ● 再生可能エネルギー工学 ● 光エレクトロニクス ● 数値解析 ● 半導体工学Ⅱ
			インターンシップ	
			長期インターンシップ	
	海外体験学習			

※2024年度入学生(電気電子工学プログラム)までのカリキュラムになります。

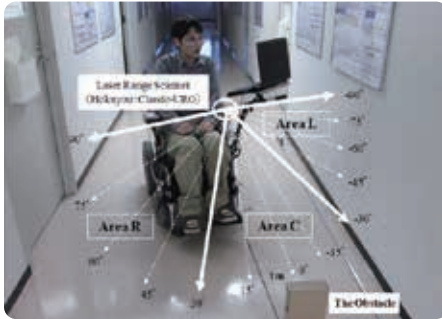
主な研究分野

再生可能エネルギー分野



- 低コスト高効率太陽電池の開発
- 集光太陽電池システムと応用技術の開発
- 車載用高効率太陽電池の開発
- 熱電材料、熱電システムの研究

医療・生体工学分野



- 癌温熱療法治療予測手法の開発
- 電動車椅子制御システムの開発
- 歩行計測機器の開発
- ナノミスト噴霧器の開発と応用

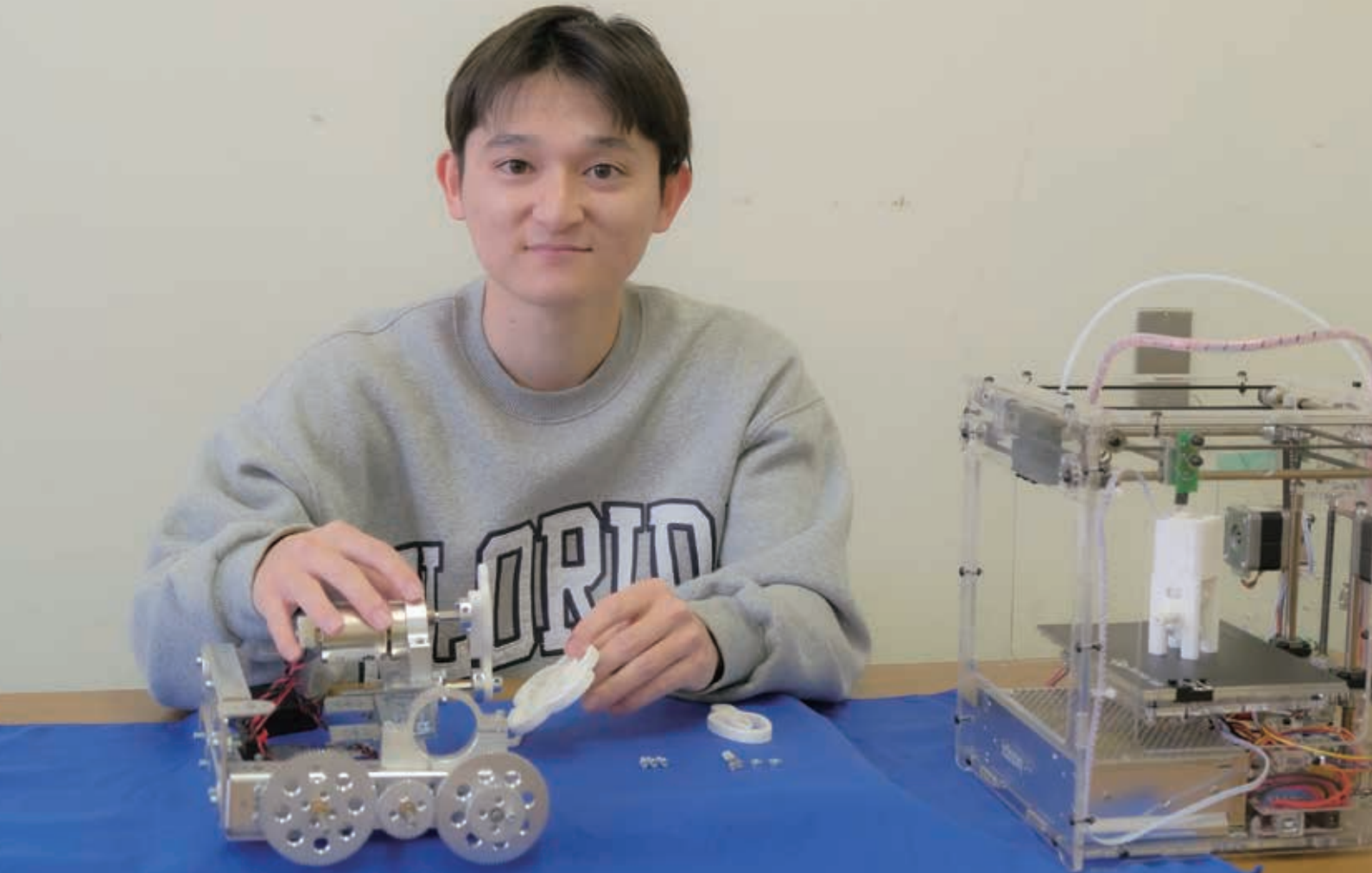
スマートエネルギーソリューション分野



- 電力ケーブルの劣化診断技術の研究
- ワイヤレス給電の開発
- アルゴンプラズマ光源の開発
- 非破壊検査の研究

詳細は電気電子システムプログラムのHPをご覧ください。 <https://www.miyazaki-u.ac.jp/feee/>





地域の特徴を活かした「人と自然に優しいものづくり」や、
地域社会に貢献する「超スマート社会の実現に向けたものづくり」

求める学生像

機械知能プログラムでは、ものづくりのベースとなる機械工学の知識や、これからの社会で必要となる情報処理や人工知能等の関連知識を習得できる教育を行います。また、持続可能な社会を実現するために、高い創造力と実行力を持った人材の育成を目標としています。したがって、本プログラムでは次のような人材を求めています。

- (1)「人と自然に優しいものづくり」や「超スマート社会の実現に向けたものづくり」に関連する技術の開発や研究に対して熱意を持って取り組む人。

(2) 数学及び理科の基礎的な知識・理解を有する人。
- (3) コミュニケーション能力を身につける上で必要となる語学能力と学問への関心を持つ人。

(4) 学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる意欲溢れる人。

研究・実習等の様子



人工関節設置後の大腿骨の強度計測実験



数値解析のためのプログラミング



筋緊張測定装置の開発



MR(複合現実)デバイスによるDX教育

カリキュラムの概要

機械知能プログラムでは、日本学術会議が策定した機械工学分野の参照基準に適合したプログラムを通して、創造的思考の基盤となる機械工学の専門知識を養う教育を行います。加えて、次世代の機械に求められるニーズに対応するために、AIやセンシング技術について教育します。また、機械工学に関わる実験・実習を通して論理的な表現力やコミュニケーション能力を培う教育を行います。

※詳しくは下記URLのホームページでご確認ください。



工学科機械知能プログラム カリキュラム				令和6年4月1日現在
	1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目	導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語、専門接続系)			
	課題発見科目(データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系)			
	未来共創科目(構想・デザイン系、共創・創造系)			
工学基礎科目	● 数学解析Ⅰ・Ⅱ ● 物理学Ⅱ ● 基礎化学 ● 数理情報Ⅰ・Ⅱ ● 工学のための物理学演習	● 線形代数 ● 力学 ● 基礎科学実験	● 数学解析Ⅲ ● 応用数学 ● 電磁気学	● 工学英語 ● 技術者倫理と経営工学
共通融合科目	【概論科目】 ● 工学概論 【分野融合科目】 ● 現象と数理 ● 応用物質化学概論 ● 土木と環境 ● 量子・ナノテクノロジー概論 ● 電気電子工学概説 ● メカトロニクス ● 情報とコンピュータ			
専門必修科目	● 機械学 ● 機械製図基礎 ● 加工システム実習 ● 機械力学 ● 伝熱工学	● 材料力学基礎 ● 熱力学Ⅰ ● 材料力学 ● 機械設計工学 ● 流体力学基礎	● 機械要素設計図及びCAD実習 ● 機械知能工学実験Ⅰ・Ⅱ ● 自動制御 ● 生産情報工学 ● 知能センシング	● 科学技術英語 ● 卒業研究
専門選択科目	● 工業力学	● プログラム言語及び演習 ● 3Dシミュレーション ● 機械材料学 ● 数値解析 ● 熱力学Ⅱ	● 振動工学 ● 流体機械 ● バイオメカニクス ● 熱エネルギー変換工学 ● 計測工学	● 機械要素設計 ● 機械構造力学 ● 数値流体力学 ● ロボット工学
		製造プロセス学外研修	インターンシップ	長期インターンシップ
海外体験学習				

※2024年度入学生(機械知能工学プログラム)までのカリキュラムとなります。

主な研究分野

機械設計・制御・加工学分野



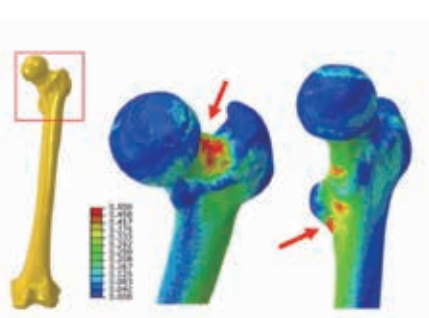
- 自律移動ロボットの開発
- AIによる豚の体重測定システムの開発
- ステッピングモータを用いた小型イカ釣り機の開発
- 人に優しい手持ち振動工具の開発
- 装着箇所のずれを許容できる装着型ロボットの開発
- 微細工具を用いた高精度加工技術の開発

環境・エネルギー工学分野



- 飼料タンク洗浄・遮熱塗装ロボットの開発
- ガラス繊維強化プラスチックのリサイクル方法の提案
- 廃GFRPによるプラスチック燃焼ガス中のCO₂の除去
- ハイブリッドポリマーベアリングの開発
- 流れ現象の解明と流体機械・機器の最適設計
- 太陽熱による水素製造の研究

医療・生体工学分野



- 人工股関節の生体力学解析
- モーションキャプチャシステムによるスポーツ動作解析
- ロコモティブシンドロームの定量評価方法の提案
- 循環器系疾患解明のための血流解析
- パーキンソン病の筋強剛測定装置の開発
- 新生児身体測定システムの開発

詳細は機械知能プログラムのHPをご覧ください。 <http://www.miyazaki-u.ac.jp/mech/>





情報通信技術で未来を創る

求める学生像

情報通信プログラムでは、情報工学および通信工学の専門知識と実践能力を身につけ、その技術を活用して社会の持続的発展と問題解決に貢献する、自立した専門技術者や研究者の育成を目的として教育研究を行います。したがって、本プログラムでは次のような人を求めています。

- (1) 情報通信技術者をめざし、情報通信技術 (ICT) を通じて、人類の幸福と地域社会や国際社会の発展に貢献する意欲がある人。

(2) 明確な目標を持って、継続的に自己学習を続けられる主体性を持つ人。

(3) 日本語と英語を基礎とした表現力を持ち、チームの一員として自分に与えられた役割を理解してチームワークのもとで様々な問題を解決し、目的を達成する意欲がある人。
- (4) 学修を通して獲得した情報通信技術の知識やスキルを活かし、社会が抱える課題の発見とその解決に取り組む意欲がある人。

(5) 公式を覚えるのではなく公式そのものを導出できる知識・技能を有し、情報通信工学の学修に必要な数学、理科、英語についての基礎学力を持つ人。

研究・実習等の様子



アクティブラーニングによる演習



AIによる情報解析



組込みシステム開発

カリキュラムの概要

急速に発展する情報通信技術に対応するために、情報工学及び通信工学の基礎とその応用分野についての専門知識を習得します。また、実システムの開発に必要な情報通信システムを設計、実装、評価する実践力を養成します。これらを講義と演習をバランスよく配置した体系的なカリキュラムで教育します。

※詳しくは下記URLのホームページでご確認ください。



工学科情報通信プログラム カリキュラム

令和6年4月1日現在

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
教養教育科目	導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語、専門接続系)			
	課題発見科目(データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系)			
	未来共創科目(構想・デザイン系、共働・創造系)			
工学基礎科目	●数学解析Ⅰ・Ⅱ ●物理学Ⅱ ●基礎化学 ●数理情報Ⅰ・Ⅱ	●線形代数 ●力学 ●基礎科学実験 ●工学のための物理学演習	●数学解析Ⅲ ●電磁気学	●工学英語 ●技術者倫理と経営工学
共通融合科目	【概論科目】 ● 工学概論	【分野融合科目】 ● 現象と数理	【PBL科目】 ● プロジェクト演習	
	【分野融合科目】 ● 応用物質化学概論 ● 土木と環境 ● 量子・ナノテクノロジー概論 ● 電気電子工学概説 ● メカトロニクス ● 情報とコンピュータ			
専門必修科目	●情報通信入門セミナー	●論理回路 ●アルゴリズムとデータ構造 ●コンピュータアーキテクチャ ●コンピュータネットワーク ●オペレーティングシステム ●プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ	●離散数学 ●情報理論 ●電気回路Ⅰ	●卒業研究
			●ソフトウェア工学 ●情報セキュリティ ●データベース ●ネットワークプログラミング ●情報通信プロジェクト演習	Pick up ネットワークプログラミング クライアントサーバシステムの設計と実装を通して、情報システム開発に必要なモデリング能力、分析能力、実現能力を育成します。
専門選択科目		●応用数学Ⅱ	●ディープラーニング ● データ解析 ● 最適化理論 ●電気回路Ⅱ ● 信号処理 ● ネットワーク応用 ●画像工学 ● 機械学習 ● 知識情報処理 ● 通信工学 ●組込みシステム ● 数値計算法 ● 動的システム ●プログラム言語論 ● 生命情報処理	
	情報工学特別講義			
	短期インターンシップ 長期インターンシップ			
海外体験学習				

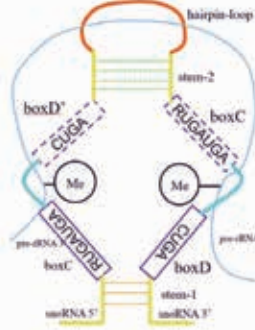
※2024年度入学生(情報通信工学プログラム)までのカリキュラムとなります。

主な研究分野

情報通信分野	情報数理分野	情報システム分野
■ 電磁波を活用するデバイスの特性解析 ■ 光通信デバイスの特性解析 ■ コンピュータネットワークの基礎と応用 ■ ネットワークセキュリティ	■ 機械学習・人工知能技術 ■ 学習・記憶など脳の情報処理の数理モデル ■ 生物情報科学における情報技術開発 ■ X線観測装置のためのソフトウェア開発 および計測データの解析	■ 動画像や静止画像の認識、処理および理解 ■ ソフトウェアの開発支援および高品質ソフトウェアの開発 ■ コンピュータビジョン、VR(仮想現実)およびAR(拡張現実) ■ 移動ロボットの制御



覗き見に強いパスワード入力方式の研究



ゲノム情報解析



動きに整合したAR(拡張現実技術)

詳しくは情報通信プログラムのHPをご覧ください。 <https://www.miyazaki-u.ac.jp/ict/>



センター概要

21世紀の工学技術者には、専門知識だけでなく幅広い能力が必要であるという認識の下、工学部では基礎教育(数学・物理・化学・データサイエンス・英語)を組織的に行う「工学基礎教育センター」を設置しています。本センターは、工学技術者に必要な基礎教育カリキュラムを担当し、工学部における学問の土台となる学力やジェネリックスキルの育成に取り組んでいます。

工学基礎教育センターの活動

高校までの学習

高校から大学への学び方の変化を滑らかにつなげる

基礎教育カリキュラムの構築

工学基礎教育センターでは1年生、2年生に対し、工学の基礎となる数学、物理、化学、データサイエンス、英語の教育を推進しています。



海外体験学習



基礎科学実験



工学基礎科目

担当科目

数学	物理・化学	データサイエンス
■ 数学の考え方	■ 物理科学 I, II	■ 数理情報 I, II
■ 線形代数	■ 基礎化学	■ 英語
■ 数学解析 I, II, III	■ 化学概論	■ 英語科目
■ 数学解析入門	■ 基礎科学実験	■ 海外体験学習

総合型選抜・学校推薦型選抜 合格者への 入学前教育

総合型選抜・学校推薦型選抜は一般選抜より早く合格が決まります。入学までの十分な期間を利用し、工学基礎教育センターでは合格者に対して入学前教育を実施しています。

補習教育の 計画・実施

数学、物理、英語では、補習教育を実施しています。授業で分からないことを聞くことができ、学びが充実するような環境を構築しています。



補習教育

各プログラム専門科目へ

詳しくは本センターのホームページをご覧ください。 <http://www.miyazaki-u.ac.jp/csee/>



教育研究支援技術センター

教育研究支援技術センターは、工学部及び工学研究科の教育・研究及び技術の支援に係る専門的業務等を円滑かつ効率的に行うために設置された技術職員組織です。

学生実習・演習・実験への技術支援、卒業研究や修士研究等の実験への技術指導をはじめ、実験装置の製作など多岐にわたる技術支援を行っています。有益な技術支援を行うため、将来必要とされる技術の習得や技術力向上のための研修を行うなど日々研鑽に取り組んでいます。また、管理支援として、工学部が有する設備や学部で運用しているサーバなどの保守管理のほか、ものづくり教育実践センター及びICTソリューションセンターを教職協働で支援しています。



教育支援(測量実習)



研究支援(分析機器ICP-MSの指導)



管理支援(局所排気装置のメンテナンス)

ものづくり教育実践センター

技術系の学部・大学院の教育改革を支えるための、デザイン能力やものづくり能力の育成と、実践型教育の現場として広く活用することを目指し、宮崎大学の開かれたものづくり支援部門として工作設備を全学に開放しています。また、実習実践教育、創造支援、依頼品の加工等の業務も行っています。



マシニングセンタによる加工



アーク溶接実習



製作品一例



ボール盤講習会



遠隔操作アプリケーション開発



システム開発



遠隔会議支援



IoTシステム構築

地域貢献活動について

教育研究支援技術センターでは、地域の方々を対象とした青少年のための科学の祭典やアドベンチャー工学部などに出席し、地域貢献活動にも取り組んでいます。



科学の祭典



アドベンチャー工学部



サイテック祭

大学院

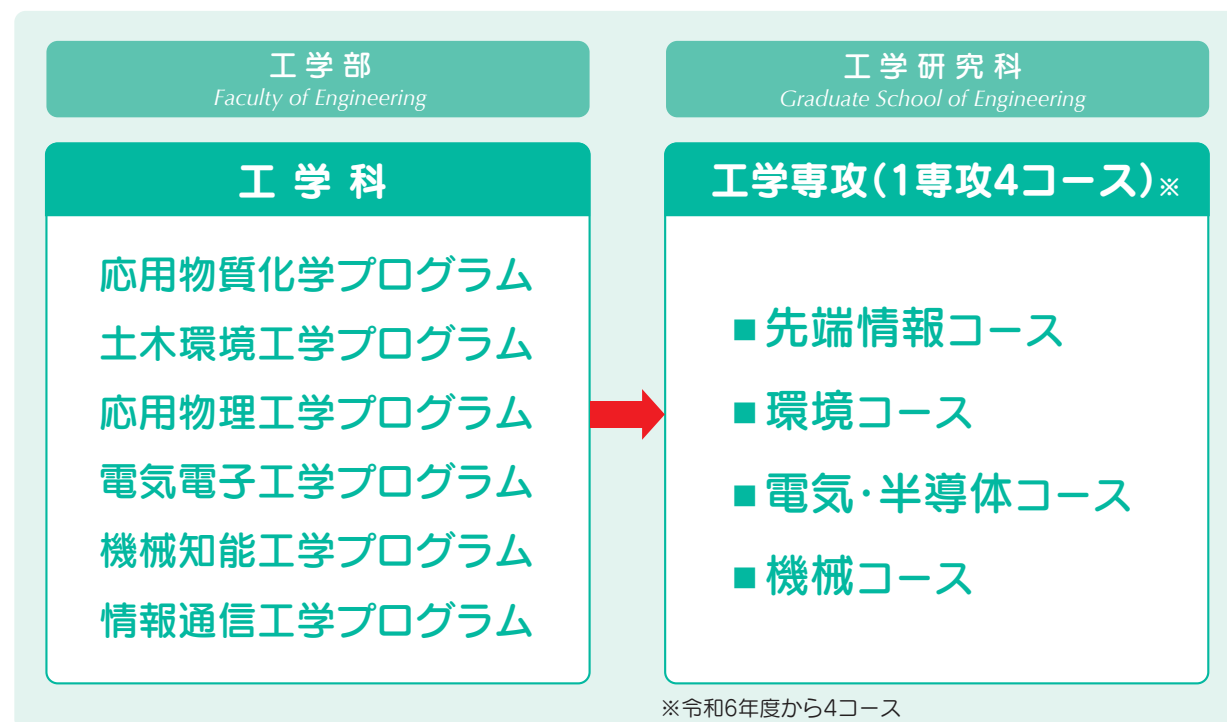
最近の社会情勢及び科学・技術分野の変化がめまぐるしく、高度な科学・技術の進展に対応するために、大学では大学院における教育研究を重要視するようになってきています。ここでは、大学院工学研究科及び大学院農学工学総合研究科でどのような教育研究が行なわれているかを紹介します。大学院には、学部から進学するコースばかりでなく、社会人入学というブラッシュアップ教育、生涯教育のためのコースも設けてあります。

産業界等で国際的に活躍できる高度専門技術者を目指して

大学院工学研究科 修士課程

21世紀の技術者は、専門知識だけでなく、技術者としての高い倫理観を持ち、地球規模で物事を考えることが要求されています。また、環境・エネルギー問題の解決や高度情報化社会への対応など、従来の技術だけでは対処できない課題が次々に発生してきています。このような背景のもとで、大学院工学研究科では、工学分野の高度専門知識を修得して応用でき、自ら課題を探究し、その解決に向けて高度専門知識を活用し主体的に考え、研究開発を通じて必要となる日本語、英語によるコミュニケーション能力を有し、産業界等で国際的に活躍できる実践的な応用力を有する高度専門技術者を育成することを目的としています。

工学専攻では、学士課程の単なる延長ではない融合型専攻として、幅広い視野、専門応用能力、コミュニケーション能力、国際性を育成する教育プログラムを構築し、実践しています。2年間の課程を修了後、修士(工学)の学位を取得できます。



※令和6年度から4コース

農学と工学が連携・融合した高度専門技術者と研究者の養成を目指して

農学工学総合研究科 博士後期課程

宮崎大学では、生命科学、環境科学等の学際的分野に特色を持った教育研究を多角的かつ柔軟に展開しています。農学工学総合研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者と研究者の養成を目指しています。

このような人材を養成することにより、21世紀の喫緊の課題である低環境負荷・持続型生産システムの構築、持続型地域社会が必要とする社会基盤の保全、動植物及び微生物の機能を活かした新規機能性食品の開発、地域バイオマス資源の有用物質への変換、ナノテクノロジーを応用した機能性材料の創生、自然共生型エネルギーの活用とその変換技術、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発、高度なソフトウェアを活用した情報処理システムの構築等の課題解決に貢献します。



学生定員7名 資源環境科学専攻

資源の枯渇、自然及び生活環境の悪化、食料危機などの人類が直面しつつある課題に取り組むために、資源の有効利用と資源循環による環境負荷の低減を基調とした、安全で活力ある循環型社会の構築に貢献できる高度専門技術者・研究者の養成を目的としています。

教育コース

- ①環境共生科学
②持続生産科学

学生定員4名 生物機能応用科学専攻

本地域及び国際社会が抱える食料・エネルギー・環境問題の課題に取り組むために、動植物、微生物及び水産生物資源が有する諸機能の解明と、それに基づいた知見を応用することにより、地域社会のニーズや国際的諸課題の解決に貢献できる高度専門技術者・研究者の養成を目的としています。

教育コース

- ③生命機能科学
④水域生物科学

学生定員5名 物質・情報工学専攻

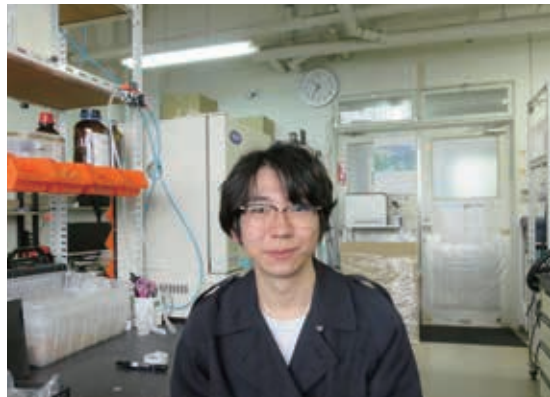
環境調和・循環型及び高度情報化社会の課題に取り組むために、環境調和型新材料の構築、エネルギーの変換・解析、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発、高度なアルゴリズムとソフトウェアを活用した情報処理技術及び数理モデルの構築に貢献できる高度専門技術者・研究者の養成を目的としています。

教育コース

- ⑤新材料エネルギー工学
- ⑥生産工学
- ⑦数理情報工学

工学部及び工学研究科、農学工学総合研究科の学生は在学中より研究・地域活動と多方面で活躍しています。先輩たちから高校生、受験生のみなさんに向けたメッセージです。

今日を生きる



【工学部 応用物質化学プログラム 2年 清水 秀一郎さん】

宮崎大学への進学を決めたきっかけは、宮崎大学出身の高校の恩師に薦められたことでした。そして、その恩師が化学を担当しており、私は化学を専門的に学びたいと思うようになりました。入学して感じた応用物質化学プログラムの魅力は、現実で起こる事象を原子や分子レベルのミクロな世界で追及することができ、それらはまるで異世界のように見える分野であるため、本当に凄くて面白いと感じることです。そしてただ単に面白いと完結するのではなく、人々の幸せや自然環境の調和に貢献できることが本プログラムの醍醐味だと考えます。

高校生活は勉強や部活動などで大変だと思いますが、日々の経験や努力を小さくてもいいので積み続けてほしいです。そうすれば次第に大きな糧となって、人生が豊かになると信じています。将来の不安や過去の苦難など、人によって抱える事情は様々ですが、自分の為すべきことに集中して、共に今を頑張っていけると嬉しいです。皆さんの夢が実現することを心から願っています。

大学と企業の連携を生かし、自分の未来を切り開ける



【工学部 電気電子工学プログラム 4年 穴繁 優大さん】

電気電子工学プログラムでは、電力工学や回路設計に加えて、半導体などの電子デバイスやAIについても学ぶことができ、幅広い分野で活躍できる可能性を持っています。大学と企業の連携も盛んで、私は地域社会に貢献する高度なデジタルスキルを持つ人材を育成することを目的とした「みやデジ・アカデミー」に参加し、デジタル活用やAIについて企業の方から学びました。さらに、約半年間のインターンシップに参加し、宿泊事業者の抱える課題をAIで解決するプロジェクトに取り組み、データの収集、学習、評価、展開までのステップを経験し、授業だけでは得られない実践的なスキルを身につけました。

また、プライベートの時間もしっかりと確保でき、硬式野球部に所属して選手兼

任監督としてチームの運営にも携わりました。

大学生活は自分次第で良くも悪くもなりますが、電気電子工学プログラムには多くの可能性が広がっており、積極的に動き挑戦すれば、自分の未来を切り開けると感じています。

情報社会の未来を切り拓こう! ー人工知能の核心に迫るー



【工学部 情報通信工学プログラム 4年 宇都宮 幸大さん】

人工知能(AI)は、日常生活から産業界に至るまで大きな影響を与えています。一方で、近年の代表的な手法である深層学習はしばしば「ブラックボックス」と評され、内部の情報処理様式の大部分が未解明です。また、学習と推論には莫大な電力や計算コストを要します。そこで、原理を深く理解し、より良いAIを「作る」「制御する」人材の重要性が今後ますます高まることが予想されます。私は、深層学習の理論基盤の構築と効果的な最適化アルゴリズムの開発を目指して研究に取り組んでいます。AIの時代で活躍するためには、プログラミング技術や通信技術、数理的な手法による問題解決能力などを身につけることが重要です。

本学科は、そのような知識やスキルを学ぶための環境が充実しています。ぜひ、私たちと共に学び、未来の情報社会を形作りましょう。

産業副産物をコンクリート分野で有効活用-環境に配慮した材料開発



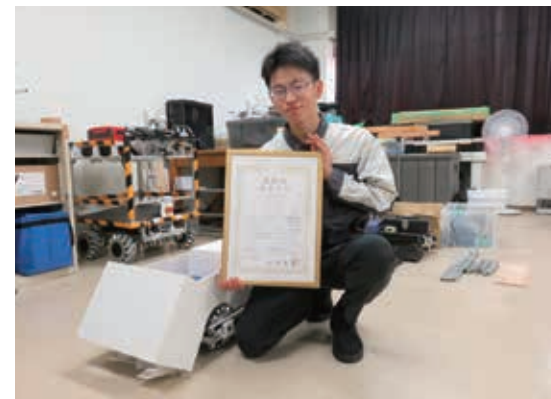
【工学研究科 環境系コース 2年 生森 悠太さん】

私は将来、トンネルや橋梁を建設する仕事に就きたいという思いから社会環境システム工学科(現在の土木環境工学プログラム)に進学しました。現在は、大学院で産業副産物をコンクリート分野で有効活用できるように環境に配慮した材料開発の研究を行っています。

大学では「自主性」がとても大切です。学業面では中学・高校とは異なり、自分が興味を持つ分野で専門知識を持った教員の方々が身近にいます。疑問に思ったことはすぐに質問できる環境下で、自分で調べたり、考えたりする力がつくるので、どんどん挑戦してみてください。

他にも、大学生活はサークル活動やアルバイトなどでの新しい出会いや挑戦に満ちています。皆さんが自分にぴったりの大学を見つけ、充実した学生生活を送れることを心から応援しています!

「宮大チャレンジプログラム」と「デザインコンペ」でダブル優秀賞受賞!



【工学研究科 機械・情報系コース 2年 早川 祐輔さん】

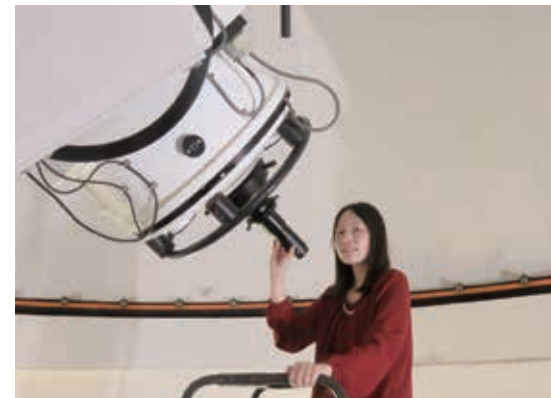
私が大学院へ進学した理由は、学部生の間に大きな結果を残せなかったからです。就職する際には九州だけでなく全国の同学年の学生たちと競争することになります。当時、私はその武器の準備を怠っていたため、その準備期間が必要と考え進学しました。

私はこれまで計画を立てて、成し遂げることなく終わることがほとんどでしたが、進学して今、大切にしていることは最後まで行動することです。自分で考えて積極的に行動することで、結果的に多くの機会に恵まれ、達成できたことも多かったです。その一つとして現在取り組んでいる研究があります。その研究内容は、ボール回収ロボットの開発です。この研究により、皆さんがこれまで使用した

ことがある野球ボールやテニスボール、卓球ボールなどこのロボット一台で回収できるという革新的な開発ができたと思っています。

最後に、高校生の皆さんはこれから受験や進学を控えていると思いますが、恐れず行動に移すことを忘れないでほしいと思います。

天文現象の解明を目指して



【農学工学総合研究科 物質・情報工学専攻 1年 西尾 美輝さん】

私が宮崎大学へ進学した理由は、宇宙について興味があり、宮崎大学は宇宙に関する研究が行われていることを知ったためです。

入学した当初は天体に関する知識は殆どありませんでした。それでも大学入学後は天文学研究部に所属し、そこで天体の観測などを通じて見聞を広めることができ、研究室配属後は宇宙に関する研究を行っている山内研究室の配属となり、先生や所属の先輩方のサポートのおかげで宇宙に関する初歩的な内容から研究テーマに関わる専門的な内容まで学ぶことができたため、今では後輩を指導できる位まで知識を得ることができました。

山内研究室は、自分が取り組みたい研究テーマを自由に決め、実施方法などについても自由に進められる環境となっており、この環境下でもっと研究を続けたいと考え、博士後期課程に進学しました。現在は可視光と近赤外線、X線の多波長で天体の観測を行っており、そのデータから観測天体で起こっている物理現象の解明を目指しています。宇宙に興味がある方も宮崎大学工学部への進学をおすすめします。

取得可能な資格

資 格	化学生命 プログラム	土木工学 プログラム	半導体 サイエンス プログラム	電気電子 システム プログラム	機械知能 プログラム	情報通信 プログラム
高等学校教諭一種免許状(理科)※2	○		○			
高等学校教諭一種免許状(工業)※2	○	○※1	○	○	○	
高等学校教諭一種免許状(情報)※2						○※1
学芸員資格※3	○	○	○	○	○	○
毒物劇物取扱責任者※4	○	○				
安全管理者※5	○					
危険物取扱者(甲種)※6	○					
技術士補※7		○	○			
測量士補※8		○				
エネルギー管理士※9					○	
機械設計技術者※10					○	

- ※1 現在、資格認定の申請中です。
- ※2 別に定める教育職員免許法の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
- ※3 所定の単位を修得し、申請すれば「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
- ※4 応用化学に関する学課を修了した者として、資格を有します。
- ※5 卒業後の勤務先で2年以上の産業安全の実務経験を経て、資格を有します。(受験不要)
- ※6 化学に関する科目を15単位以上修得すれば受験資格が得られます。
- ※7 本プログラムのJABEE修了要件を満たすと、文部科学省所管の技術士制度における技術士第一次試験が免除され、修習技術者となり、申請により技術士補の資格を得ることができます。
- ※8 所定の科目の所要単位を修得し、申請後に資格が得られます。
- ※9 エネルギー管理士試験において必須基礎科目及び選択科目(熱分野または電気分野)の試験に合格することにより取得できます。
- ※10 所定の科目の所要単位を修得し、実務経験や所定の条件等を要するものがあります。

Available Qualifications

就職・進学状況

学 部						
令和6年5月1日現在						
学 科	令和5年度 卒業生数	進路状況				
		製造業	非製造業	官公庁	自営その他	進学
環境応用化学科	60(0)	10	11	0	2	37
社会環境システム工学科	49(0)	0	18	12	1	18
環境ロボティクス学科	49(0)	7	5	1	2	34
機械設計システム工学科	53(0)	10	3	7	1	32
電子物理工学科	47(0)	7	4	3	2	31
電気システム工学科	41(0)	8	14	0	0	19
情報システム工学科	51(1)	3	21(1)	3	1	23
計	350(1)	45(0)	76(1)	26(0)	9(0)	194(0)

()内は留学生で内数

就職・進学状況

Status of Employment and Higher Education

5年間の就職率

年 度	2019	2020	2021	2022	2023
工学部就職率(%)	98.2	98.9	98.4	98.1	98.0
工学研究科就職率(%)	99.2	99.2	97.4	99.3	99.3

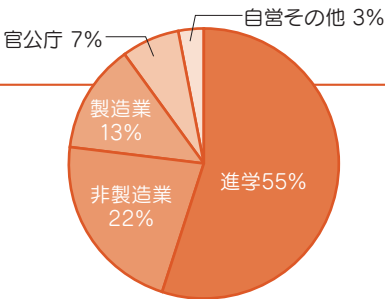


主な就職先企業・団体(2023年度卒業生実績)

【県外企業・団体】	NTT東日本、TOTO、旭化成、アルトナー、クボタ、ダイフク、マキタ、三井ハイテック、村田製作所、九州電力、京セラ、沢井製薬、住友電気工業、大成建設、ダイハツ工業、太平洋セメント、デンカ、東京電力ホールディングス、東ソー、日産自動車、日東電工、日本電気、日本パーカライジング、パナソニックホールディングス、富士電機、古河電気工業、マツダ、三菱電機、愛三工業、NJS、テラプロープ、SUBARU、スズキ、高田工業所、住友重機械工業、太平電業、三井住友建設、ミネベアミツミ
【県内企業・団体】	旭有機材、富士フィルムワコーケミカルニチワ、デンサン、宮崎エプソン、ソラシドエア、九州公営、九州土木設計コンサルタント、西田技術開発コンサルタント、三桜電気工業、サザンクロスシステムズ、フェニックスシステム研究所、SUNAO製薬、キャデック、MJC
【公務員】	宮崎県庁、宮崎市役所、鹿児島県庁、鹿児島市役所、大分県庁、大分市役所、福岡県庁、気象庁、宮崎地方方法務局、国土交通省
【教 員】	宮崎県立高等学校教員(工業)

街へ、社会へ、そして未来へ

工学部の卒業生の約55%は大学院へ進学し、約42%は精密機器、電子機器、ソフトウェア、建設などの関連企業から商社まで広い分野の民間企業と官公庁などに就職しています。



2023年度卒業生実績

大学院(工学研究科修士課程)

令和6年5月1日現在

専 攻	令和5年度 修了者数	進路状況				
		製造業	非製造業	官公庁	自営その他	進学
環境系コース	35	23	12	0	0	0
エネルギー系コース	58(4)	33	18(3)	2	2	3(1)
機械・情報系コース	63(3)	38(2)	22	1	1	1(1)
計	156(7)	94(2)	52(3)	3(0)	3(0)	4(2)

()内は留学生で内数

大学院(農学工学総合研究科博士後期課程)

令和6年5月1日現在

専 攻	令和5年度 修了者数	進路状況				
		製造業	非製造業	官公庁	自営その他	進学
資源環境科学専攻	11(5)	0	9(4)	0	2(1)	0
生物機能応用科学専攻	4(1)	1(0)	3(1)	0	0	0
物質・情報工学専攻	5(1)	1(0)	4(1)	0	0	0
計	20(7)	2(0)	16(6)	0(0)	2(1)	0(0)

()内は留学生で内数

工学は現在、50年後、100年後において、人類の生命・生存にとって無くてはならない学問・技術であり、将来の工学を担う子供たちを育成するためには、子供たちに早くから科学に関心を持ってもらい、理科が大好きな少年・少女を育てることが必要です。

工学部では、子供たちが科学の素晴らしさやものづくりの楽しさが体験できるようなイベントを工夫を凝らしながら企画・実施しています。

テクノフェスタ体験入学

工学部テクノフェスタ(体験入学)では、工学部工学科の6プログラムがそれぞれ特色ある講義と実習を企画し、高校生に希望する企画を体験してもらうことで、各プログラムの教育・研究内容と工学の面白さを知ってもらい、高校生が進路を選択する上での参考にしていただくことを目的として、毎年11月に開催しております。



アドベンチャー工学部

アドベンチャー工学部は、工学部工学科6プログラム及びセンターで行われている教育・研究や工学の面白さを幼稚園児や小・中学生を中心とした地域の方々に触れていただけるよう、科学実験や科学工作等の体験ができるブースを8つ設けて、毎年11月に開催しております。各ブースとも地域の皆様が興味を引くようなテーマを設定しており、多くの方から好評いただいているイベントです。



上記以外のイベント以外にも、公開講座の開催や出前講義、宮崎県「翔け！未来の科学者育成事業」や「スーパーサイエンスハイスクールの事業」、宮崎市体験型進学就職イベント「ゆめパーク」等、県内各地の事業・イベントに協力しています。



出前講義

宮崎サイエンスキャンプ

ゆめパーク

工学部、工学研究科及び農学工学総合研究科では、多数の外国人留学生を受け入れ、学内のグローバル化を進めるとともに、工学部においては交流協定に基づく学術交流・学生交流等を行っております。



令和6年6月1日現在

留学生数

国名	学部生		大学院生		研究生		計		
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	合計
ミャンマー Myanmar			1	11			1	11	12
中国 China		4		3		1		8	8
マレーシア Malaysia		1		1				2	2
バングラデシュ Bangladesh			1	1			1	1	2
アフガニスタン Afghanistan				1		1		2	2
インドネシア Indonesia				10				10	10
スリランカ Sri Lanka			1	1			1	1	2
ジンバブエ共和国 Republic of Zimbabwe		1						1	1
計	0	6	3	28	0	2	3	36	39

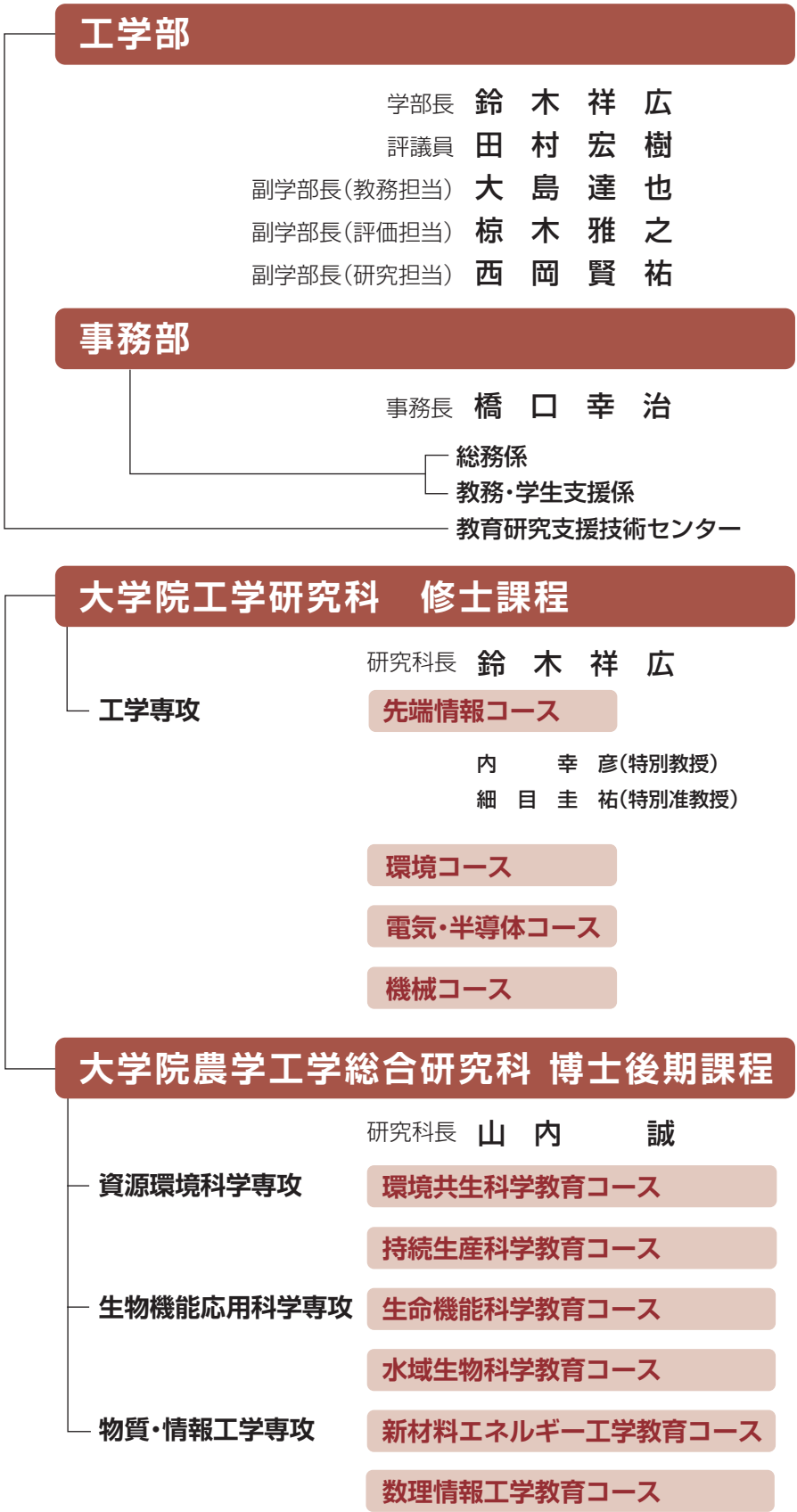
※大学院生は、主指導教員が工学部教員である農学工学総合研究科の留学生を含めている。
※政府派遣留学生および県費留学生は私費に含めている。

令和6年6月1日現在

外国の大学等との交流協定

国名	交流協定大学等	協定の目的	締結年月日	締結部局(本学)
ポーランド Poland	ヤン・コハノフスキ大学 The Jan Kochanowski University of Humanities and Sciences	学術交流 Academic Exchange	平成5.2.1	工学部
オーストラリア Australia	メルボルン大学 University of Melbourne	学術交流 Academic Exchange	平成25.10.16	工学部
中国 China	重慶理工大学 Chongqing University of Technology	学術交流・学生交流 Academic Exchange・Student Exchange	平成27.12.24	工学部
チュニジア Tunisia	カルタゴ大学 University of Carthage	学術交流・学生交流 Academic Exchange・Student Exchange	平成29.9.13	工学部
インドネシア Indonesia	カジャマダ大学 Gadjah Mada University	リンケージプログラム Linkage Program	平成27.3.23	工学部
	バンドン工科大学 Institute of Technology Bandung	リンケージプログラム Linkage Program	平成27.3.23	工学部
	ブラウイジャヤ大学 Brawijaya University	ダブルディグリープログラム Double Degree Program	平成16.4.5	工学部
	リアウ大学 University of Riau	ダブルディグリープログラム Double Degree Program	平成28.11.17	工学部
	ヌサチャングナ大学 University of Nusa Cendana	学術交流・学生交流 Academic Exchange・Student Exchange	令和5.6.27	工学部
ミャンマー Myanmar	マンダレーコンピュータ大学 University of Computer Studies, Mandalay	ダブルディグリープログラム Double Degree Program	平成27.3.18	工学部
	ヤンゴンコンピュータ大学 University of Computer Studies, Yangon	ダブルディグリープログラム Double Degree Program	平成27.3.18	工学部
	ヤタナボン工科大学 University of Technology (Yatanarpon Cyber City)	ダブルディグリープログラム Double Degree Program	平成27.3.18	工学部
	ヤンゴン工科大学 Yangon Technological University	ダブルディグリープログラム Double Degree Program	平成27.12.30	工学部
	ヤンゴン大学 University of Yangon	ダブルディグリープログラム Double Degree Program	平成31.3.1	工学部
	マンダレー大学 University of Mandalay	ダブルディグリープログラム Double Degree Program	平成31.3.4	工学部
	コンピュータ大学(マンダレー) University of Computer Studies (Mandalay)	ダブルディグリープログラム Double Degree Program	令和2.4.15	工学部
	コンピュータ大学(モンユワ) University of Computer Studies (Monywa)	ダブルディグリープログラム Double Degree Program	令和2.4.15	工学部
トルコ Turkey	オスティム技術大学 OSTIM Technical University	学術交流 Academic Exchange	令和2.9.18	工学部
マレーシア Malaysia	マレーシア科学大学 University of Science Malaysia	学術交流 Academic Exchange	令和5.4.3	工学部

令和6年5月1日現在



プログラム・センター	教 授	准 教 授	助 教	特別教員
応用物質化学 プログラム (化学生命プログラム)	白 上 努 酒 井 剛 塩 盛 弘一郎 奥 山 勇 治 大 島 達 也 井 澤 浩 則	菅 本 和 寛 松 根 英 樹 廣 瀬 遵 松 永 直 樹 鍋 谷 悠 宇 都 卓 也 松 本 仁	宮 武 宗 利 稲 田 飛 鳥	湯 井 敏 文(特別教授) 田 川 聡 美(特別助教)
土木環境工学 プログラム (土木環境プログラム)	土 手 裕 村 上 啓 介 森 田 千 尋 鈴木 祥 広 末 次 大 輔 入 江 光 輝	李 春 鶴 福 林 良 典 嶋 本 寛 糠 澤 桂 関 戸 知 雄	神 山 惇	堀 澤 英太郎(特別助教)
応用物理工学 プログラム (半導体サイエンス プログラム)	横 谷 篤 至 福 山 敦 彦 前 田 幸 治 森 浩 二 山 内 誠	荒 井 昌 和 武 田 彩 希 前 田 幸 重 鈴木 秀 俊	横 山 宏 有 亀 山 晃 弘	原 田 知 季(特別助教)
電気電子工学 プログラム (電気電子システム プログラム)	迫 田 達 也 淡 野 公 一 吉 野 賢 二 西 岡 賢 祐 穂 高 一 条 武 居 周 田 村 宏 樹	加 来 昌 典 永 岡 章 太 田 靖 之 (GX 研究センター教員)		荒 木 建 次(特別教授) 今 井 正 人(特別教授)
機械知能工学 プログラム (機械知能プログラム)	鄧 鋼 川 末 紀功仁 申 炳 録 河 村 隆 介 長 瀬 慶 紀	李 根 浩 木之下 広 幸 大 西 修 宮 内 優 盆子原 康 博 舛 屋 賢 山 子 剛	友 松 重 樹 古 池 仁 暢	KHIN DAGON WIN (特別助教)
情報通信工学 プログラム (情報通信プログラム)	廿 日 出 勇 THI THI ZIN 棕 木 雅 之 岡 崎 直 宣 片 山 徹 郎 山 森 一 人 横 田 光 広 内 山 良 一	伊 達 章 中 良 弘 油 田 健太郎 井 上 健太郎 横 道 政 裕 山 場 久 昭	片 山 晋 高 橋 伸 弥 椎 屋 和 久 CHO NILAR PHYO	PYKE TIN(特別教授) 臼 崎 翔太郎(特別助教)
工学基礎教育センター	飯 田 雅 人 五十嵐 明 則 今 隆 助 坂 本 眞 人 松 田 達 郎	梅 原 守 道 池 田 諭 出 原 浩 史 川 崎 典 子 大 榮 薫 小 林 俊 介		

()のプログラムは令和7年度からのプログラム となります。

学 部

令和6年5月1日現在

学 科	定員	入学年度									
		令和2年度(2020)		令和3年度(2021)		令和4年度(2022)		令和5年度(2023)		令和6年度(2024)	
		志願者数	入学者	志願者数	入学者	志願者数	入学者	志願者数	入学者	志願者数	入学者
環境応用化学科	58	322(3)	58								
社会環境システム工学科	53	327	55								
環境ロボティクス学科	49	160(3)	50								
機械設計システム工学科	54	283(8)	56(1)								
電子物理工学科	53	216(1)	53								
電気システム工学科	49	185(3)	50								
情報システム工学科	54	342(11)	54								
計	370	1835(29)	376(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
工学科	370			1789(16)	371(2)	1836(11)	370(1)	1886(10)	372(2)	1736(4)	370(0)
計	370			1789(16)	371(2)	1836(11)	370(1)	1886(10)	372(2)	1736(4)	370(0)

()内は留学生で内数

大学院(工学研究科修士課程)

令和6年5月1日現在

専 攻	コース	定員	入学年度									
			令和2年度(2020)		令和3年度(2021)		令和4年度(2022)		令和5年度(2023)		令和6年度(2024)	
			志願者数	入学者	志願者数	入学者	志願者数	入学者	志願者数	入学者	志願者数	入学者
工学専攻	環境系	134	26	20	51	43	41	36	54(2)	42(2)		
	エネルギー系		51	46	56	50	63(4)	59(4)	68(2)	48(1)		
	情報・機械系		70(2)	55(2)	72(2)	55(2)	78(3)	68(3)	85(1)	73(1)		
	先端情報コース	144									73(3)	63(3)
	環境コース										52	46
	電気・半導体コース										37(1)	37(1)
	機械コース										36	32
	計		147(2)	121(2)	179(2)	148(2)	182(7)	163(7)	207(5)	163(4)	198(4)	178(4)

()内は留学生で内数

大学院(農学工学総合研究科博士後期課程)

令和6年5月1日現在

専 攻	定員	入学年度									
		令和2年度(2020)		令和3年度(2021)		令和4年度(2022)		令和5年度(2023)		令和6年度(2024)	
		志願者数	入学者	志願者数	入学者	志願者数	入学者	志願者数	入学者	志願者数	入学者
資源環境科学専攻	7	13(8)	12(7)	12(1)	12(1)	9	9	7(3)	7(3)	5(2)	4(1)
生物機能応用科学専攻	4	3	3	9(2)	9(2)	4	3	2(1)	2(1)	5(1)	5(1)
物質・情報工学専攻	5	8(2)	7(2)	9(2)	9(2)	6(1)	6(1)	6(3)	5(3)	7(3)	7(3)
計	16	24(10)	22(9)	30(5)	30(5)	19(1)	18(1)	15(7)	14(7)	17(6)	16(5)

()内は留学生で内数

学 部

令和6年5月1日現在

学 科	定員	1年	2年	3年	4年	計
環境応用化学科	58				6	6
社会環境システム工学科	53				17	17
環境ロボティクス学科	49				6	6
機械設計システム工学科	54				9(1)	9(1)
電子物理工学科	53				9	9
電気システム工学科	49				14	14
情報システム工学科	54				12	12
計	370<10>	0(0)	0(0)	0(0)	73(1)	73(1)
工学科	370	370	372(2)	365(2)	358(2)	1465(6)
計	370<10>	370(0)	372(2)	365(2)	358(2)	1465(6)

()内は留学生で内数
< >内定員数は第3年次編入学定員分を外数

大学院(工学研究科修士課程)

令和6年5月1日現在

専 攻	コース	定員	1年	2年	計
工学専攻	環境系	134	2(2)	43(2)	45(4)
	エネルギー系		0	47(2)	47(2)
	情報・機械系		1(1)	76(3)	77(4)
	先端情報コース	144	63(3)		63(3)
	環境コース		46		46
	電気・半導体コース		37(1)		37(1)
	機械コース		32		32
	計		181(7)	166(7)	347(14)

()内は留学生で内数

大学院(農学工学総合研究科博士後期課程)

令和6年5月1日現在

専 攻	定員	1年	2年	3年	計
資源環境科学専攻	7	6(3)	7(2)	16(4)	29(9)
生物機能応用科学専攻	4	6(2)	1	8(2)	15(4)
物質・情報工学専攻	5	7(3)	5(3)	17(10)	29(16)
計	16	19(8)	13(5)	41(16)	73(29)

()内は留学生で内数

学 部

令和6年5月1日現在

学 科	卒業年度				
	令和元年度(2019)	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)
環境応用化学科	57(1)	62	54	50	60
社会環境システム工学科	58	46	51	48(1)	49
環境ロボティクス学科	47	46(1)	51	49(1)	49
機械設計システム工学科	54(2)	52	53(1)	55(1)	53
電子物理工学科	46	53(1)	54	48	47
電気システム工学科	47	52	50(1)	52(1)	41
情報システム工学科	58(1)	45(2)	57(2)	53(2)	51(1)
計	367(4)	356(4)	370(4)	355(6)	350(1)

()内は留学生で内数

大学院(工学研究科修士課程)

令和6年5月1日現在

専 攻	コース	修了年度				
		令和元年度(2019)	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)
工学専攻	環境系	30	27(1)	22(4)	39(1)	35
	エネルギー系	48	45(4)	44(3)	51(3)	58(4)
	機械・情報系	48(2)	53(2)	57(1)	52(2)	63(3)
計		126(2)	125(7)	123(8)	142(6)	156(7)

()内は留学生で内数

大学院(農学工学総合研究科博士後期課程)

令和6年5月1日現在

専 攻	修了年度				
	令和元年度(2019)	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)
資源環境科学専攻	7(6)	8(7)	9(4)	5(3)	11(5)
生物機能応用科学専攻	4	2	2	2(1)	4(1)
物質・情報工学専攻	5(2)	5(4)	10(5)	3(2)	5(1)
計	16(8)	15(11)	21(9)	10(6)	20(7)

()内は留学生で内数

教職員数

令和6年5月1日現在

学 科	教 員					事務系職員			合計
	教授	准教授	助教	特別教員	計	事務職員	技術職員	計	
応用物質化学プログラム	6	7	2	2	17				17
土木環境工学プログラム	6	5	1	1	13				13
応用物理工学プログラム	5	4	2	1	12				12
電気電子工学プログラム	7	3	0	2	12				12
機械知能工学プログラム	5	7	2	1	15				15
情報通信工学プログラム	8	6	4	2	20				20
工学基礎教育センター	5	6			11				11
工学研究科				2	2				2
教育研究支援技術センター							20	20	20
事務部						16		16	16
計	42	38	11	11	102	16	20	36	138

事務職員16名のうち4名は有期契約職員
電気電子工学プログラムにはGXセンター教員を含む

施 設

令和6年5月1日現在

単位(Unit):㎡

建物施設		階層	研究室	講義室	実験研究室	管理部門	その他	合計
実験研究棟	A棟	SR6	3,203	145	1,569	2,834	279	8,030
	C棟	SR6	2,534		1,385	1,346	133	5,398
	E棟	SR8	1,581		790	924	258	3,553
B棟		R2		1,641		891	16	2,548
実験実習棟	ものづくり教育実践センター	S1			625	23		648
	機械工学実験実習棟	S1			413			413
	土木環境工学科実験実習棟	S1			937			937
	高電圧実験実習棟	S1			189	16		205
	電気機器実験実習棟	S1			217	42		259
	乱流風洞実験棟	R1			240			240
その他	危険物倉庫	S1				20		20
	車庫	S1				49		49
	水処理実験室	S1				34		34
計			7,318	1,786	6,365	6,179	686	22,334